

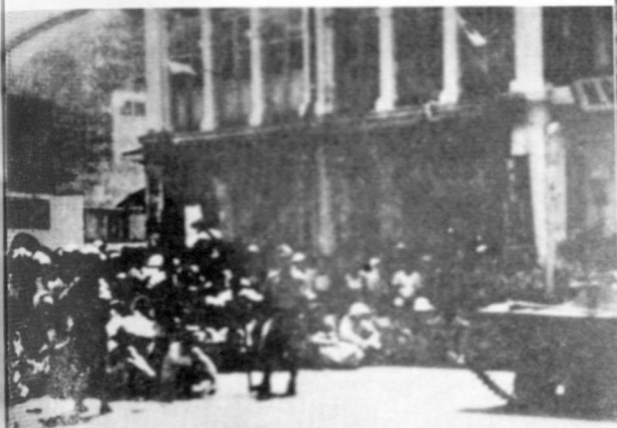


昭南島
(シンガポール島)
1:130 000



昭南特別市
(シンガポール市)
1:47 000

華人大虐殺につながった「検証」の現場 これらの写真は、いずれも大石憲兵隊長が撮ったものであるが、その入手にさいして、ひとりの華人の尊い犠牲が払われた。



▲ 大石正幸憲兵隊長

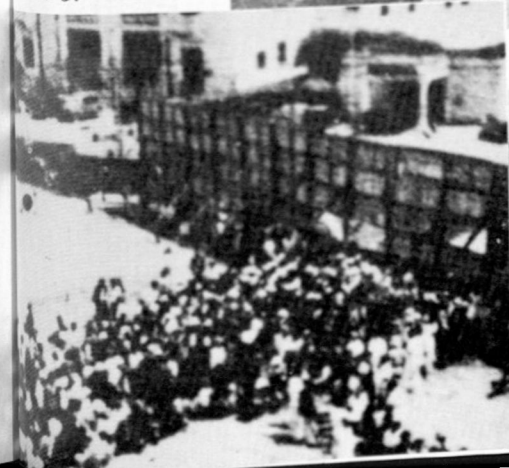
▼ サゴ街での検証光景。検証を受ける人の行列が見える。



▲ ノース・ブリッジ路のジャラン・クポー口の検証現場。右端に戦車が見える。

▼ カントンメント路とケッペル路の丁字路における検証現場。塙で通りが塞がれている。

▼ ノース・ブリッジ路とアラブ街の交差点における検証光景。道が土のうと机で塞がれている。



日本の読者のみなさんへ

シンガポールの歴史において、一九四二年から一九四五年までの日本占領期は、シンガポール人にとってはよく知られている時期であるが、学術研究の領域では、まだ多くの空白と疑問があり、今後の開拓にまたなければならぬ。よく知られているというのは、五〇歳以上の人々は誰しもこの時代の経験者であり、歴史の「生き証人」といえるからである。また、開拓にまつというのは、史料が不足していたり、系統的に整理されていないため、埋めねばならない空白も多く、疑問点も残っているからである。しかも、この時期の歴史は、シンガポールの国家形成にとって重要な段階である。早急に現存の史料および先輩者の貴重な経験を総合し、この時期の歴史を深く研究、総括して、次の世代に伝えることが、戦時を体験した世代の念願であり、そのさし追った任務でもある。本書の原著『新馬華人抗日史料』は、こうした状況のもとで出版されたものである。その編集目的は、現存する文献、公文書、論文および回想録を広範に収集し——その出典を問わず、その立場を問わず——広く世に公開し、読者の判断により、「去礫存金（石を取り去り、玉を残す）」ことよって、歴史の真実を求めることにある。

このたび、青木書店の勧めにより、『史料』第四章のうち、シンガポールにかんする部分が日本語に訳されて出版されることになった。文史出版社の同人は、当初、この一部分だけでは原著編集の精神と目

的が、十分に反映されないのではないかと危惧した。しかし、日本によるシンガポール占領の歴史は、まだ日本では十分に知られていないのが現状である。たとえば、日本での滞在経験をもつシンガポール人が驚かされることのひとつは、日本の青年たちが、誰ひとりとして、日本軍がシンガポールでおこなった「検証」の史実をまったく知らないことである。一部の人にいたっては、この事件の存在さえ信じないというのだった。それも無理からぬことかもしれない。日本の教科書やマスコミのなかで、この歴史については、記述されることもなければ、報道されることもなかったからである。

したがって、もしこの一部訳だけでも、日本の読者がこの時期の歴史を学び、さらにはこの時期の歴史にたいするシンガポール人の心情と認識を理解することになれば、なんらかの貢献をするであろうし、日本版として出版される意義が失われることもなからう。もちろん、編者としては、この時期の歴史の背景と全貌を、正しく理解しようとするかたがたには、やはり同時に原著をひもとき、その全容をつかむ努力をしていただきたいと思う。

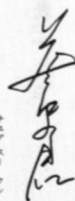
最後に指摘したいことは、本書出版の目的は、決して古傷をあばき、互いに反感を呼び起こすことにあるのではなく、両国人民が、この時代の歴史の全貌と真実を、より深く認識することにある、という点である。それによって、相手の感情を相互に理解するという基礎を築き、そのうえに、双方の友好関係を一層発展させ、平和で安定した隣国関係を樹立したいからである。

原著のまえがきでも述べたことだが、「前事不忘、後事之師(前のことは忘れず、後のことの戒めとする)」ということが、やはり本書出版の目的なのである。

本書が日本で順調にはん訳出版できたことについて、私はシンガポールの文史出版社を代表して、訊

者の田中宏教授、福永平和氏および編集者の桜井香氏に謝意を表したい。

一九八六年六月二三日



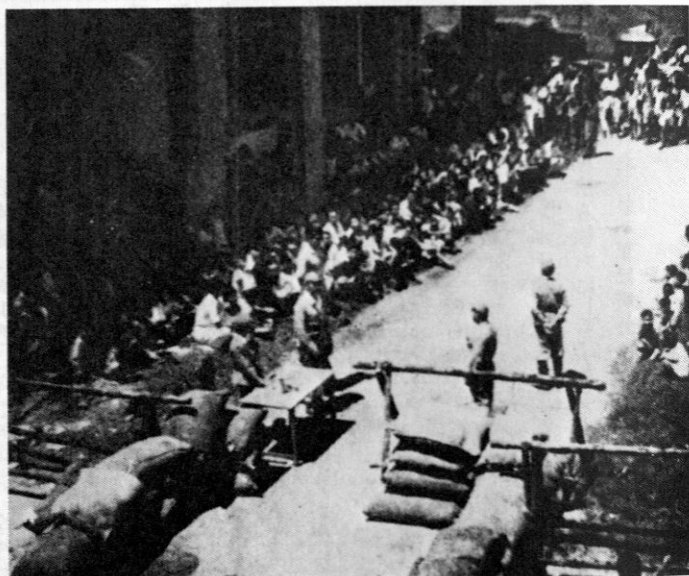
(蔡史君)

- 一 本書は、原出版人・故莊惠泉上校、原主編・故許雲樵教授、編修・蔡史君「新馬華人抗日史料一九三七—一九四五 (Malayan Chinese Resistance to Japan 1937-1945 - Selected Source Materials)」(文史出版、一九八四年、シンガポール)の第四章の(一)新加坡(四二九—四九七頁)および第六章所収の編修者・蔡史君氏の論文「日軍検証大屠殺人数之商榷」(八六八—八七一頁)を邦訳したものである。ただし、読者の便宜を考慮して新たに四章だてにし、配列順序も入れ替えた。また、「馬來亞民衆与皇軍協力新秩序——大日本軍司令官声明」「抗日運動之罪首被鎗決——昭南警備司令官關於維持本島治安之声明」「昭南警備司令官声明」「殺一拯百——昭南日報社論」「昭南時代教育方針」「発刊詞——昭南日報」の六つの文章は、その性格から、ケイ囲みとして各所に挿入したほか、原著の一部(「馬來亞淪陷期中的基督教」および「光怪陸離之政治」中の「提倡賭博」)は割愛した。
- 一 本文中、()内は訳者注である。本文と直接関係のない訳者による注は、*、*1、*2の記号を付して、各文章末に一括して掲げた。
- 一 本文中の地名は原則としてシンガポールでの発音にもとづいてカタカナで表記した。ただし、ロードは「路」に、ストリートは「街」に統一した。
- 一 本文中の写真は原著から転載した。原著以外から収録した写真・地図などには、その出所を明示した。

日本の読者のみなさんへ……………	蔡史君	1
凡例……………		4
第一章「検証」——華人虐殺事件……………		9
1 日本軍進駐後のシンガポール……………		10
◇馬來民衆は、皇軍とともに新秩序に協力すべし——大日本軍司令官声明……………		14
2 日本軍の入城、そして検証の記録……………		24
◇抗日運動の首魁は銃殺された——昭南警備司令官ノ本島ノ治安ヲ維持スルコトニ関スル声明……………		27
3 検証の回想……………		28
4 シンガポール各地の検証経過……………		32
5 アッパー・セラングーン路6マイルでの検証……………		36

6	九死に一生を得た話	39
	◇昭南警備司令官声明	42
7	シンガポール陥落時の受検記	47
8	ジュロン路陥落の時	50
	◇一を殺して、百を救う——「昭南日報」社説	52
9	ブキ・テマの大虐殺	54
10	一九四二年、日本軍によるアレキサンドラ病院の惨劇	58
11	日本軍による検証大虐殺の犠牲者数を検討する	59
第二章 庄 政		
1	昭南悪夢録	74
2	壬午新年の日本軍進駐	103
3	シンガポール軍港労働者の地獄生活回想録	107
4	上も下も、それぞれに利を追求	127
5	浪機関の秘密	134
6	山下奉文、奉納金を徴集	144
7	日本軍と各民族	148
8	昭南島の日本憲兵隊	157
9	日本ファシストの拷問	159
10	昭南憲兵隊のテッチ上げ事件	161
11	金龍憲兵隊略記	165
12	人間の生き地獄	169
13	日本軍占領後のシンガポール	180
第三章 日本軍政下の市民生活		
1	奇々怪々なその政治	186
2	占領期シンガポールの教育	205
	◇昭南時代の教育方針	216
3	シンガポール日本語学園	220
4	二つの歌劇「桃太郎」と「ネコとネズミ」	223
5	昭南時代の新聞事業	227
	◇発刊の詞——「昭南日報」	228
6	昭南放送局の冤罪事件	236
7	「華僑研究」で首が飛ぶところだった	247

第一章 「検証」——華人虐殺事件



「検証」の光景。検問のゲートの脇に日本兵が立ち、多くの華人が待たされている（1962年3月7日付華字紙『経済時報』より）。

本書によせて——訳者あとがき	田中宏	319
2 入獄前後		302
1 烈士許人（天祐）の殉難について		294
第四章 「抗日」を生きる		293
10 昭南時代の人口		291
9 昭南島の禁令		258
8 日本政府職員だった或る人の自白		253